

2016年12月号

12月15日(木)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

# 月刊 温根内通信 No. 243



## 雪化粧の温根内…

木道には雪。いよいよ本格的な冬が始まりました。翌朝には雪の上にエゾシカの足跡が無数にあり、改めてその個体数の多さにも驚かされます。

さて、2016年もあとわずか。今年はビジターセンターの建替え、台風の連続上陸、ファイターズ日本一…などなど、温根内だけでなく北海道全体が激動の1年でしたね。皆さんはどんな1年でしたか？

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【木道のフロストフラワー】  
ピンと張り詰めたように冷えた朝には、木道にびっしりと霜が付いているときがあります。よく見ると、雪の結晶のような綺麗な造形が浮かび上がります。



【ハンノキ】  
カバノキ科 樺の木  
先端のイモムシのようなふくらみが雄花、その下の小さなふくらみが雌花の花芽です。早春に目立たない花を咲かせます。



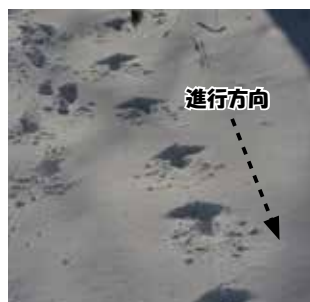
【バッコヤナギ】  
ヤナギ科 跋扈柳  
日当たりのよい所にあるバッコヤナギの冬芽は、芽鱗からフワフワの白い花序になっているものがあります。鶴居軌道跡で探してみてください。



【カラフトイソツツジ】  
ツツジ科 樺太磯躑  
先端に鱗状の花芽が見られ、写真のように葉をたんでこのまま冬を越します。来年の春、ミズゴケ湿原で白い花を咲かせます。



【フキノトウ(アキタブキ)】  
キク科 秋田蓴  
季節を勘違いしてか、この時期に毎年、湧水地周辺で雄株が芽吹きます。地味な色合いになった鶴居軌道跡で、新緑が目を引きます。



【タンチョウの足跡】  
ツル科 丹頂  
積雪した日に鶴居軌道跡を歩くと、特徴的な指(第2～第4趾)の足跡がわかります。採餌のため湧水地に向かって歩いているようです。

〇表紙の写真 上:積雪した木道とエゾシカの足跡 中右:エゾシカの群れ 中左:木道のフラワーフロスト 下:タンチョウ

## ～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内周辺の上空では、オジロワシやオオワシが見られるようになり、いよいよ本格的な冬の到来を感じるようになりました。また、鶴居軌道跡の樹木や湧き水周辺にも、この時期にしか見られない野鳥たちが観察されます。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出しています。お気軽にご利用ください。



【オオアカゲラ】 留鳥  
キツキ科 大赤啄木鳥  
アカゲラよりひと回り大きく、背中に白い逆ハの字がないのが特徴です。この個体は頭頂部が黒いので、メスと考えられます。



【ツグミ】 冬鳥  
ヒタキ科 鶇  
冬鳥として群れで全国に渡ってきます。「キィ、キィ」「キョロッ」といった声で鳴き、木の実をつついていく姿が見られます。



【オジロワシ】 冬鳥・留鳥  
タカ科 尾白鷲  
ビジターセンター上空をゆったりと旋回しているオジロワシがいました。くさび型の白い尾と翼を広げた姿が直線的なのが特徴。



【タンチョウ】 留鳥  
ツル科 丹頂  
鶴居軌道跡の水場を餌場に行っているつがいです。姿は見えなくても鳴き合いをしている声が湿原内に響き渡る時があります。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥(11月15日～12月14日) ※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■モズ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■カワラヒワ■マヒワ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

### ☆☆☆特集 教えて！木道から見えるあの山は何？ その①☆☆☆

天気の良い日、温根内木道から壮麗な山並みが北方向に見えるときがあります。特にこの時期は、雪を被った稜線が青空に映え、味わいある姿が見られます。「あの山は何ですか？」とお客さんから聞かれることもよくあります。そこで今回は少し趣向を変え、木道から見えるこれらの山々を2回に分けて紹介したいと思います。お勧めの観察ポイントは、前頁のマップを参照ください。  
**<雌阿寒岳>** まずは何といてもこの山。木道の44番付近から北方向を眺めると・・・左端に綺麗な円錐形、その右隣には煙を吹き出す横長の台形状の山が続いています。円錐形の山を「阿寒富士」(標高1,476m)、台

形に見える山を「雌阿寒岳」(標高1,499m)と言います。気象庁では、この一連の山体を総称して「雌阿寒岳」としており、道東地方を代表する活火山のひとつです。阿寒富士は読んで字のごとく、本州の富士山のような形をしています。数千年前にマグマを噴き出して成長し、今の形になりました。(狭義の)雌阿寒岳の山頂部で煙を吹いているのは、ポンマチネシリ火口という火口で、山頂まで登山して近づくと、ゴォーと音を立てて噴気を上げていました。阿寒富士と違って雌阿寒岳は、マグマの噴き出す火口を転々と変えながら成長したため、幅の広い、台形状の形になりました。雌阿寒岳はいつ噴火し



44番付近から見える阿寒の山々(撮影日:12/4)

でもおかしくない火山と言われ、最近では2008年の11月に小規模な噴火が起きました。



雌阿寒岳の拡大写真

**<雄阿寒岳>** 同じく44番付近で雌阿寒岳から右に目を移すと、いかにも雄々しくどっしりとした独立峰が見えます。

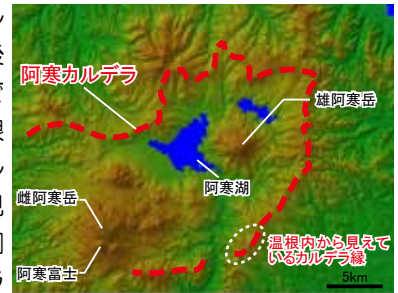


◎11番付近から見た雄阿寒岳

これが雌阿寒岳と対をなす山、「雄阿寒岳」(標高1,370m)です。近年の研究により過去の噴火が解明され、2011年に活火山に指定されました。44番付近でも見られますが、お勧めの観察ポイントは中間コースのC11番付近です。ここからだとならに山の裾野まで見ることができます。

**<阿寒カルデラ縁>** さて、前頁の写真で、雌阿寒・雄阿寒岳の間に、丘のような平らな地形があるのはおわか

りでしょうか。これは「阿寒カルデラ」と呼ばれる、カルデラ地形の縁になります。「カルデラ」とは、大きな火口(直径2~3km以上)と考えてください。阿寒カルデラは百数十万年前~20万年前頃にかけて、非常に大きな噴火を繰り返してできたカルデラです。雌阿寒・雄阿寒岳はこのカルデラが形成した後に、カルデラ内にできた火山です。温根内からは、阿寒カルデラの南東の縁が見えています。右の図を見ると、カルデラと雌阿寒・雄阿寒岳の位置関係がわかると思います。



いかがでしたか?実は温根内から見える山には、今回紹介しきれなかったものがあります。そちらは次号のお楽しみとしたいと思います。(藤原伸也)

### ☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆



○「初冬の湿原ハイク」12月4日 参加者:8名

これからの厳しい冬を越えるために、植物がどのように過ごしているかを観察することを主眼にした、初冬の湿原ハイクを実施しました。講師の加藤氏(釧路市立博物館)の計らいで、参加者が見つけたり気づいたりしたものに対しては皆で観察して疑問を解決しようという流れで進められました。参加者からは「ウキクサは氷の下でも緑色のまま越冬するの?」「ヨシは地下茎でつながっているの?」など多くの質問があり、ハイクは盛り上がりました。加藤氏からは各植物の越冬戦略について、幅広い解説をしていただきました。

### ☆☆☆☆イベントのご案内(1月)事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪厳冬の湿原ハイク

〔日時〕1月15日(日)10:00~12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

雪上に残る動物の痕跡から、冬の湿原にはどんな動物が暮らしているのか、探ってみましょう。暖かい服装と、長靴の持参をお願いします。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるこっと) ⇒お申し込み☎015-487-3003

♪連凧を作って揚げよう

〔日時〕1月7日(土)10:00~12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)

〔参加費〕100円(材料費)

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

#### ~職員募集のお知らせ~

塘路湖エコミュージアムセンターでは来年の4月から働ける指導員1名(正職員)を募集しています。詳しい募集内容はハローワークまでお問い合わせください。募集の締切は2月1日です。

本年は大変お世話になりました。

来年もよろしくお願ひいたします。

年末年始休館日

12月29日(木)~1月3日(火)

.....  
月刊 温根内通信 No.243

発行:釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel:0154-65-2323 Fax:0154-65-2185

E-mail:ovc@hokkai.or.jp

ホームページ:http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間:10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週火曜日(12/29~1/3は休館) 入館無料

.....